

駐在員日より 「初釜に参加しました」

「初釜（はつがま）」は茶道の新年のお稽古を始める新年会のような行事のことで、茶道をたしなんでおられる方にとっては新年を迎える大切なものなのではないでしょうか。

去る 1 月 17 日（日）、裏千家淡交会ミシガン協会様が開催された初釜に招待いただきました。お茶会に自分が出させていただくというのは初めてのことでしたので、戸惑いもありましたが、経験できることはありがたいと思い、参加させていただきました。開催場所は主催者の裏千家淡交会ミシガン協会鍋田弘子先生のご自宅で、お濃茶（おこいちゃ）、お薄茶（おうすちゃ）のお点前を拝見し、おいしいお茶をいただきました。

昨年 6 月、ミシガン州グランドラピッズ市にありますフレデリック・マイヤー・ガーデンズ・アンド・スカルプチャー・パークの日本庭園開園時に、三日月滋賀県知事が日本庭園の中に建てられたお茶室でお茶会を開催された際、裏千家淡交会ミシガン協会の皆さんにお手伝いをさせていただきました。そのご縁で、招待いただいたものです。

お茶会自体も初めての経験でしたので、作法も付け焼刃ですが、鍋田先生がくつろいだ雰囲気を作ってください、和やかな空気の中でお茶をいただくことができました。参加された方は他流派の先生、ミシガン州でお茶を学んでおられる大学教授の方等、11 名の方がおられました。その中に 40 歳ぐらいのアメリカ人女性の方がおられました。会話をする機会があり、なぜ茶道に関心を持たれたのか興味が湧きましたので、話を聞いてみました。彼女いわく「子どもの頃に『ザ・カラテ・キッド』（邦題は『ベスト・キッド』）という映画を見ました。その映画で主人公が日本に行く場面があって、お茶会のシーンがすごく印象的でした。それ以来、お茶会のことがずっと気になっていて。」とのこと。「まだ 2 回しか稽古していないし、知っている日本語は「お先に失礼します。」「お点前、ちょうだいします。」といったお茶会に関することだけ。でも、憧れていたお茶の世界に触れることができワクワクしているの」、ともおっしゃっていました。

アメリカ人にとって、「お茶」は日本文化を象徴するものの一つなのでしょう。日本の文化が外国で受け入れられ、その文化が好きだと言ってくれる人がいる、というのはうれしい限りです。同時に日本文化の底力を強く感じました。

